

患者さんと函館五稜郭病院をつなぐ広報誌

ふうりん

95

2026

HAKODATE GORYOUKAKU HOSPITAL

特集 医療を止めない。 地域を支える災害対策

1. 災害拠点病院 新規指定

総務課 主任 鍵潤平

2. 災害に備える 五稜郭病院のインフラ設備

施設管理課 課長補佐 小谷憲弘

3. いざという時に備える透析医療

臨床工学科 科長 雲母公貴

4. 災害派遣医療チーム-DMAT-の活動

統括DMAT(小児科・救急科主任医長) 櫻井恭平

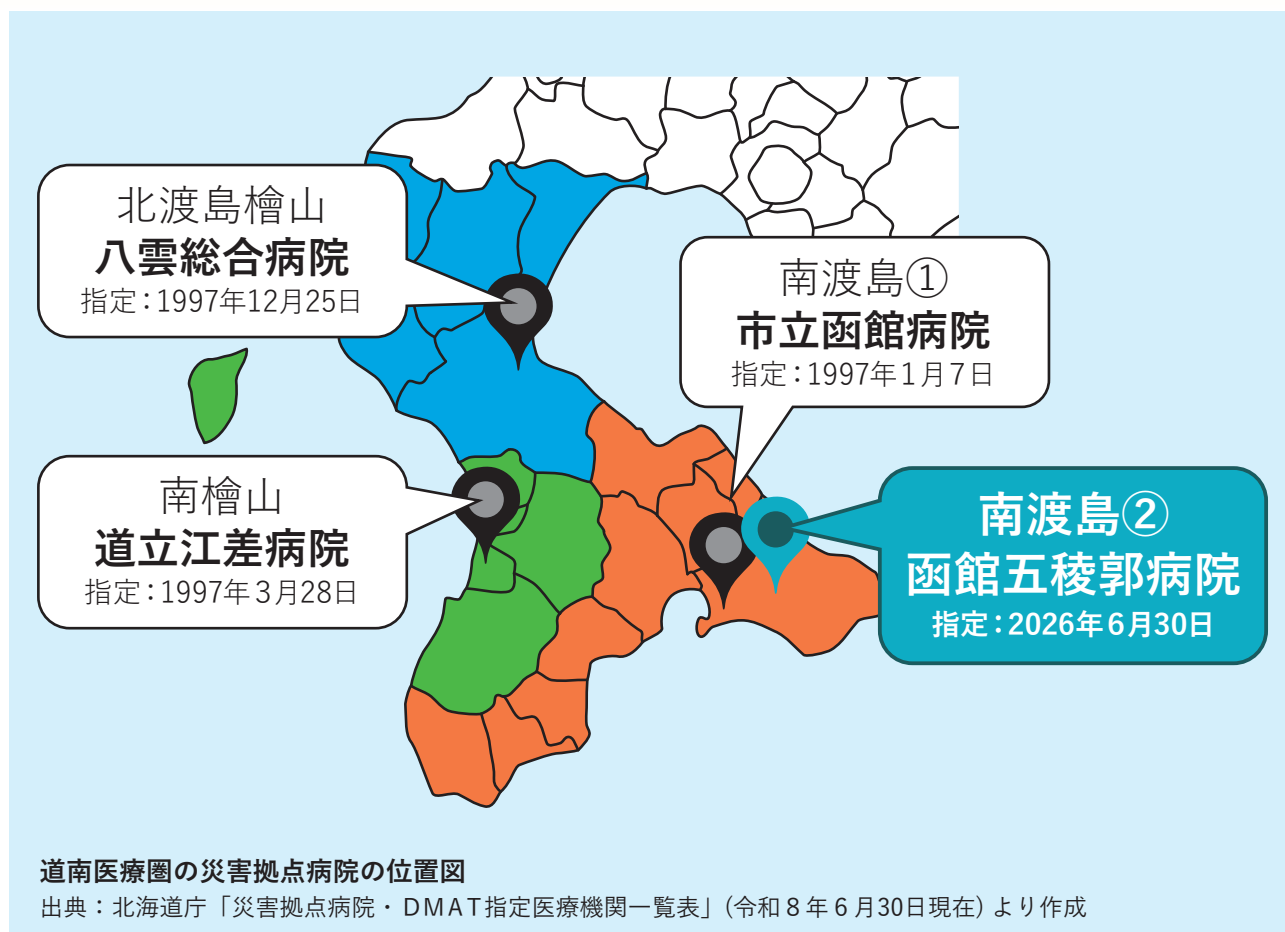


社会福祉法人函館厚生院 函館五稜郭病院
<https://www.gobyu.com>

特集 1

函館五稜郭病院 道南圏域29年振りの 災害拠点病院 新規指定

執筆：総務課 主任 鍵 潤平



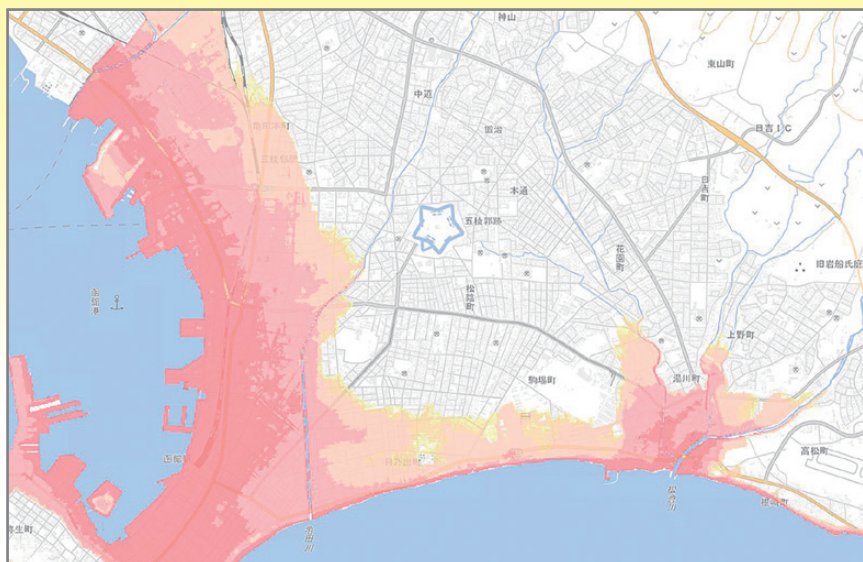
災害拠点病院の役割や機能

当院は、2026年6月30日付で北海道から「災害拠点病院」の指定を受けました。道南地域では、災害拠点病院の整備が始まった1997年以来、新たな指定はありませんでしたが、近年の胆振東部地震や日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震への備えを強化する必要性を踏まえ、このたび指定を受けることとなりました。

災害拠点病院とは、大規模災害時に重篤患者への高度な救命医療を行うとともに、被災地からの患者受け入れやDMAT（災害派遣医療チーム）の派遣など、地域の災害医療の中核を担う医療機関です。

当院は、DMATの運用や各種災害訓練への積極的な参加・実施に加え、自家発電設備や井戸水など災害時にも医療機能を維持できるインフラ整備が高く評価され、指定に至りました。

今後も、地震・津波・台風・新興感染症などの大規模災害に備え、地域の医療機関や行政、関係機関との連携を一層強化し、平時からの備えと災害発生時の迅速な対応を通じて、道南地域の災害医療を支える中心的な役割を果たしてまいります。



出典：函館市ハザードマップWeb版
(<https://www.hazardmap.city.hakodate.hokkaido.jp/>)

函館市ハザードマップ

「函館市のハザードマップを見ると、市街地や幹線道路、主要な行政機関や医療機関も津波災害警戒区域があります。」
当院は津波災害警戒区域外であり、地震発生時に津波被害を受ける恐れが低く、そういった地域事情からも、当院に求められる役割は非常に大きいと考えます。

災害対策の取り組み

当院では、大規模災害に備えた訓練を継続的に実施しています。昨年は全国規模の「大規模地震時医療活動訓練」を当院で実施し、函館市で震度6弱の地震と津波被害が発生した想定のもと、約200名のDMATが全国から参集。医療機関での活動や広域医療搬送に加え、災害対策本部の運営や多数傷病者受入訓練を行い、

実践的な災害対応能力の向上を図りました。また、2019年にはBCP（事業継続計画）を策定し、災害時でも必要な医療を継続できる体制やインフラを整備しています。今後も訓練とBCPの運用を通じて職員一人ひとりの対応力を高め、地域の皆さまに安心していただける「災害に強い病院」を目指してまいります。



左列 対策本部

【写真：訓練の様子】

右列 多数傷病者受入

病院のインフラ設備

執筆：施設管理課 課長補佐
小谷 憲弘

年 3 月 11 日の東北地方太平洋沖地震、2018 年 9 月 6 日の北海道胆振東部地震によるブラックアウトの経験を維持するため、様々な対策を図ってきました。ここでは当院の安定的な医療の活動を支えるための、電気

▶ 電力供給設備



▶ 発電機



停電時の電力確保を目的とした発電機を 3 基設置しており、合計 1, 200 kW の発電能力を備えています。これは通常使用電力の約 8 割を賄うことができる容量です（一般家庭では 1 日あたり約 12 ～ 15 kWh 程度）。

また、発電機用の燃料を常時確保し、約 1 週間の連続運転が可能で、体制を整備しています。さらに、地域の燃料会社との連携により優先供給を受けることで、長期間の停電時にも安定した電力確保が可能としています。



電気



井水ろ過装置

給水設備は、井戸水（井水）から飲用水を精製する「ろ過装置」と公共水道を併設しており、院内使用水の約 99 % をろ過装置で運用しています。

原水となる井水は 2 か所の井戸から汲み上げ、院内の槽に貯留後、ろ過装置を通し、飲用水として院内各所へ供給されます。

井水が豊富な地域特性を活かし、井戸が枯れない限り安定的な使用が可能であり、約 10 年間にわたり日々の水質検査や点検を実施し、無事故での運用を継続しています。



水道



都市ガス設備

都市ガスを供給するためのガス管に、「中圧管」というものがあります。これは一般家庭とは異なるガスの圧力により供給する仕組みで、強度や耐震性に優れています。阪神淡路大震災では、採用していた施設の 9 割超が無傷だったため、国も強く推奨しており、大規模な施設で採用されている、供給方式となります。

当院では、この中圧管が採用されており、ガスの安定した供給が得られることで、手術器具の洗浄や冷暖房環境、入院食の安定した提供を可能としております。



ガス

特集2 災害に備える 五稜郭

災害時において医療を止めないことは、地域医療を担う病院に求められる重要な使命です。当院は、2011から、公共のライフラインが途絶えた際にも、安定した医療を提供し続け、患者さんに安心して頂ける環境や水道、ガスといったライフライン設備の仕組みなどについて触れていきたいと思います。



液化酸素貯蔵タンク

医療の継続に不可欠な医療用ガスについて、当院では安定供給体制を整備しています。医療用ガスは人工呼吸器の使用などに欠かせない重要なインフラです。

当院では、CE（コールドエバポレーター）に液体酸素を貯蔵し、これを気化させて院内各所へ供給しています。あわせて移動式ボンベも常時配備し、多重的なバックアップ体制を確保しています。

これにより、最低12日間、最大23日間の供給を維持でき、災害時においても安定した医療提供を支えています。



医療用 ガス



Starlink アンテナ

現代社会において、災害時であっても情報発信・収集を継続するためには、電話やインターネット回線の多重化が不可欠です。

当院では、Inmarsat衛星を利用した衛星電話「インマルサットBGAN」と、SpaceX社の低軌道衛星を活用した高速・低遅延の衛星インターネットサービス「Starlink」を導入しており、災害時においても平時と同等の通信環境を確保しています。



通信



災害用備蓄

当院に併設されているSPDセンター（旧函館五稜郭支援学校）には、医療用具が配備されており、日々このセンターより器材が供給されています。多くの在庫が保管されていることから、災害によりメーカーからの物流が途絶えたとしても医療行為を継続することを可能としています。また、食料や飲用水、災害セットといった備蓄も保管されており、患者さんと職員を含め、約3日分の備蓄があります。



備蓄

特集 3

いざという時に備える透析医療
—当院の透析災害対策—

当院は、地域で唯一「腎臓内科」を標榜する病院として、50床の透析センターを有し、血液透析や血液濾過透析、特殊な血液浄化、腹膜透析など、幅広い透析治療を行っています。医師、看護師、臨床工学技士が力を合わせ、「この地域の透析を守る」という思いで、日々の診療に取り組んでいます。

執筆：臨床工学科 科長 雲母 公貴

当院の透析災害対策

透析を受けている患者さんにとって、災害時に心配なのは「透析が続けられるかどうか」です。当院では、いざというときにもできる限り透析医療が続けられるよう、日頃から準備を進めています。

- ✓ 非常用電源の確保
- ✓ 透析用水の二重化
- ✓ 透析供給装置2台体制
- ✓ 消耗品の備蓄
- ✓ 薬剤供給体制の確保
- ✓ 定期的な訓練の実施

透析患者さんの災害対策

災害時には、通常通院している施設で透析を受けられなかったり、開始時間が大幅に遅れる場合があります。そのため、平時から次の点に留意しておくことが重要です。

- ✓ 透析条件の控え
- ✓ かかりつけ医療機関の連絡先の控え
- ✓ お薬手帳・マイナンバーカードの常備
- ✓ 水分・塩分・カリウム・リンの管理意識
- ✓ 非常食の準備
(透析用の備蓄食があればなお良い)
- ✓ 避難行動の事前確認
(連絡手段、避難ルートなど)

Tips

胆振東部地震—ブラックアウト—の経験

2018年の北海道胆振東部地震では、北海道全域で停電が発生し、透析医療の継続が困難となりました。当院は建物被害がなく電力を確保できたため、透析診療を継続しました。通信が不安定な中でも、訓練してきたMCA無線を用いた連絡網が機能し、2日間で3施設78名の患者さんを受入れました。この経験を通じて、当院の災害対応力と意識は大きく向上しました。今後も地域の透析医療を支える病院として、安全で安心な透析医療を継続して提供できる体制づくりに取り組んでまいります。

特集 4 災害派遣医療チーム — DMAT — の活動

監修：統括DMAT（小児科・救急科主任医長） 櫻井 恭平



※写真：災害対策本部を立ち上げる当院DMAT

DMAT（ディーマット）って？

DMAT(災害派遣医療チーム)は、被災地の医療を支えるために、専門的な研修と訓練を受けた医療従事者です。平時ではそれぞれ医療機関に勤務しています。

いちばんの目的は、**地域の医療を止めないこと**。そして地域の医療が元どおりに**回復するまで支え続けること**です。そのために必要なことは、状況に応じて何でも行います。

支えるのは病院や診療所だけではありません。近年は**高齢者施設などの福祉施設**への支援も、大切な役割になっています。DMATの活動では、必要な物資は自分たちで持参し、**被災地に負担を掛けないこと**が原則です。



被災地域のために、やれることはなんでもやる

※引用：DMAT事務局ホームページより (<https://dmat.jihs.go.jp/>)

活動時期

災害発生直後の急性期からいち早く動き出しますが、被災地からの要請に基づき、厚生労働省DMAT事務局等を通じて、依頼があります。

おおむね48時間以内に活動を始められる機動力が強み。そこから、地域の医療が落ち着くまで活動をつなぎます。

チーム構成

4名1チームが基本

医師【Dr】 1名

看護師【Ns】 2名

業務調整員【Lg】 1名

※通信・移動・諸調整を担当

活動内容

- ◆被災した病院・診療所の支援
- ◆高齢者施設・福祉施設の支援
- ◆患者搬送（遠くの病院へ）
- ◆災害現場での応急治療
- ◆本部での指揮・連絡・調整

活動場所

DMATが支えるのは、被災地で医療や介護を必要とする人がいる、あらゆる場所です。

- ◆被災した病院・診療所
- ◆高齢者施設・障害者施設などの福祉施設
- ◆避難所・救護所
- ◆在宅で療養している患者さん

函館五稜郭病院DMAT

当院DMATは2022年に発足し、まだ4年目と若いチームですが、定期的な訓練への参加や令和6年能登半島地震での活動などを通じ、日々研鑽を積んでいます。

被災地支援に加え、災害発生時には災害拠点病院として地域医療を継続するため、自院だけでなく他の医療機関や行政機関等と連携し、日本が抱える災害という課題に医療の側面から貢献してまいります。



函館五稜郭病院 理念

「安心」・「信頼」・「満足」を患者さんと地域に

基本方針

1. 当院は道南医療圏における急性期型病院としての役割を担う
2. 外来診療は救急、紹介をメインとし、急性期入院主体の医療を提供する
3. 信頼できる安全な医療、根拠に基づく質の高い医療を提供する
4. 患者さんの権利を尊重し、対話と思いやりのある医療を提供する
5. 地域の医療機関との連携を重視した医療を提供する
6. 職員がやりがいと夢を持てる職場づくりを行う



お車でお越しの方へ



記号	駐車場名称	収容台数	利用時間	巡回バス
A	地下駐車場 車高 2.3 M 以上の車は駐車できません。	78	7:30～19:00	×
B	北 駐 車 場	47	6:30～20:00	×
C	東 駐 車 場	63	7:30～20:00	×
D	第 1 駐車場	12	7:30～20:00	×
E	第 2 駐車場	22	7:30～16:00	×
F	第 3 駐車場	43	8:30～16:00 (土曜日のみ15:00まで)	○
G	第 4 駐車場	30	9:00～15:00	○

ご利用しませんか？

会計あと払いサービス

診察終了後…

会計を待たずに帰宅！

スマホ専用アプリやパソコンから…

明細書を自由に確認！

ご利用は

2ステップで簡単

1 クレジットカード登録

2 受診日に後払い申請



五稜郭病院の最新情報はSNSで発信中！
たくさんのフォローお待ちしております

